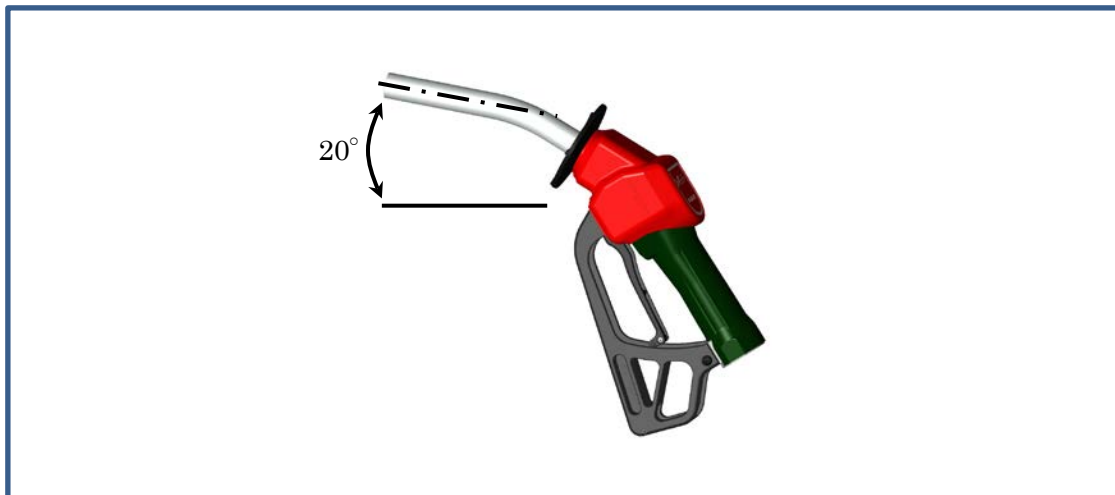


固定給油設備のノズルに設置されている姿勢検知機能について

1 概要

ノズル管先端が20度以上上向きになると、姿勢検知センサーが作動して吐出が停止する機能を備えたノズルのことである。



2 現在の市場への普及率

姿勢検知機能を備えたノズルについては、計量器工業会に所属する全メーカーにおいて、平成16年以降製造のノズルについては、当該機能が標準装備となっている。



姿勢検知機能を設置することで低減されると考えられるリスク

事故パターン1（固定給油設備の不具合によるガソリン流出）

事故パターン2（給油行為者の故意又は過失によるガソリン流出）

ガソリン大量流出のリスク

※ 姿勢検知機能については、現在は点検の対象となっていない（資料 4-3-1 参照）ため、定期的に作動確認を行うことが必要ではないか。

参考：危険物保安技術協会「固定給油設備等及びこれらの構成設備の型式試験
確認実施要領」（平成10年3月11日制定・最終改正平成19年8月
20日）（抜粋）

7-7 ホース機器転倒時供給停止装置

7-7-1 供給停止装置の構造の確認

- (1) 地上式固定給油設備等の油中ポンプ機器にあつては、ホース機器が傾斜した場合にホース機器に取り付けられた姿勢検知装置が傾きを検知し、ポンプ機器の回路を遮断する装置の構造について、申請図書によって確認を行う。
- (2) 地上式固定給油設備等のホース機器が傾斜した場合にホース機器遮断弁が閉止することにより危険物の供給を停止する装置の構造について、申請図書によって確認を行う。

7-7-2 作動試験

- (1) 姿勢検知器を有するホース機器を任意の方向に傾斜させ、角度30度以下で油中ポンプ機器が運転を停止することの確認を行う。
- (2) 遮断弁を有するホース機器を任意の方向に傾斜させ、角度30度以下で遮断弁が作動し、危険物の供給を停止することの確認を行う。
- (3) ホース機器遮断弁作動後の漏れ量は、150mL以下であること。